

令和7年度 生徒指導専門委員会研修会

実施期日：令和7年11月5日（水）

会 場：埼玉会館 小ホール

主 催：埼玉県高等学校PTA連合会

後 援：埼玉県教育委員会

後 援：（一財）埼玉県高等学校安全振興会

目 次

次第	・・・・・・・・ 2 ページ
----	----------------

発表校資料

(1) 埼玉県立久喜工業高等学校 P T A	・・・・・・・・ 3 ページ
(2) 埼玉県立狭山工業高等学校 P T A	・・・・・・・・ 7 ページ
(3) 埼玉県立浦和高等学校 P T A	・・・・・・・・ 11 ページ
(4) 埼玉県立熊谷西高等学校 P T A	・・・・・・・・ 15 ページ

令和7年度埼玉県高等学校PTA連合会 生徒指導専門委員会研修会 次 第

日時 令和7年11月5日(水)

場所 埼玉会館 小ホール

受付 9:30～10:00

【司会・進行】 埼玉県立浦和高等学校PTA副会長 福原 真吾

1 開会のことば(10:00)

埼玉県立春日部東高等学校PTA会長 伊野 明美

2 開会行事(10:00～10:10)

(1) 委員長あいさつ 埼玉県立皆野高等学校PTA会長 横田 昌弘

(2) 講評者 紹介 (司 会)

(3) 発表者・校長の紹介 (司 会)

3 研究協議(10:10～11:30)

(1) 実践発表 (各校20分)

東部支部 埼玉県立久喜工業高等学校PTA会長 川口 由美
【久喜工業高校におけるPTA活動と生徒指導】

西部支部 埼玉県立狭山工業高等学校PTA会長 村田 顕光
【PTA活動の歩みと、生徒たちに託す未来】

南部支部 埼玉県立浦和高等学校PTA会長 清水 将寛
【埼玉県立浦和高等学校におけるPTA活動と生徒指導】

北部支部 埼玉県立熊谷西高等学校PTA理事 小川 早紀・富澤 美雪
【自転車の安全利用に係る交通安全教室の実施について】

(2) 質疑応答

(3) 講 評(11:40) 市町村支援部生徒指導課 指導主事 篠田 健志 様

4 連絡

埼玉県高等学校PTA連合会より 事務局 川田 清隆

5 閉会のことば(12:00)

埼玉県立春日部東高等学校PTA会長 伊野 明美

～久喜工業高校における PTA 活動と生徒指導～

埼玉県立久喜工業高等学校 P T A 会長 川口 由美

1 本校の概要

本校は、昭和 3 8 年 4 月に、電気科、工業化学科、機械科の各科 2 クラス、計 6 クラスの工業高校として開校した。これまで 1 万 3 千人を超える技術者を輩出し、地域企業のニーズに応え、創立 6 0 年を超える伝統ある高校である。その後、平成 3 年度に電気科 1 クラスを情報技術科に、平成 7 年度には工業化学科 1 クラスを環境科学科に学科転換し、5 学科 6 クラスの学校として現在に至る。また、工業化学科のみ開校当初から男女共学であったが、平成 4 年度に全学科で男女共学となった。



本校での教育は、それぞれの学科の特色を生かしながら、専門的な工業教育を基幹に社会人教育や人間教育に重点を置いた、生徒に寄り添う指導を心掛けてきた。特に、資格取得に力を入れており、埼玉県の「専門資格等取得表彰」や全国工業高等学校長協会の「ジュニアマイスター顕彰」において、毎年多数の生徒が表彰を受けている。また、部活動においても意欲的に取り組んでいる。中でも登山部は関東大会への出場を重ねており、結成間もないダンス同好会は、昨年度、オーストラリアでの世界大会へ出場した。

現在の在籍は 5 4 0 名程であり、近年の生徒募集において定員を満たさない状況が続き、多くの進路先からの要望に応えきれていないことはとても残念である。

2 本校の課題

本校を希望する生徒数の確保については大きな課題である。生徒募集に対し、学校説明会や体験入学の実施、H P やインスタなどによる情報発信、中学校への出前授業、地域主催イベントへの参加など、積極的に行っている。しかし、就職内定率・進学合格率ともに 1 0 0 % の実績や資格取得の実績など本校の魅力を十分に中学生や中学生の保護者へ伝えきれていない現状にある。

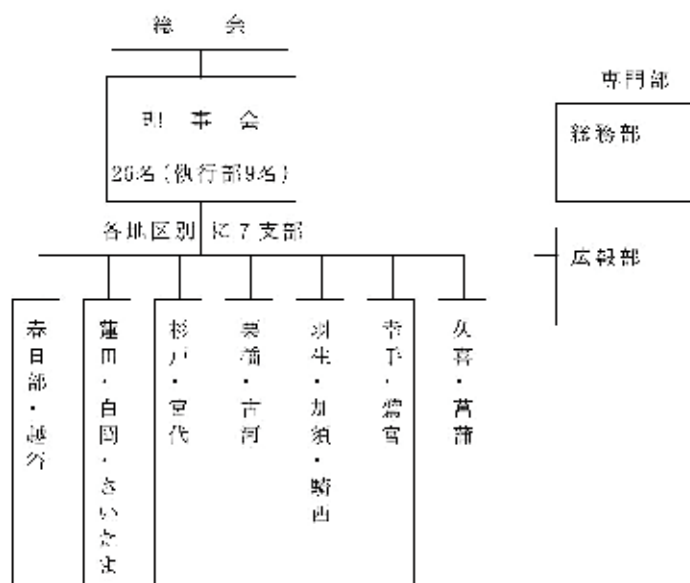
3 本校の P T A 組織

本校は、開校当時から P T A を組織しており、積極的な活動をしてきた。組織の特徴としては、遠方からの保護者に対し、学校との関わり合いを強く持ってもらいたいという思いから、出身中学校地域を 7 つの支部に分け、それぞれの支部独自の P T A 組織として運営されてきた。また、各支部からの選出による支部長・副支部長が本部の理事として加わり、学校全体の動きや P T A 活動についての中枢の議決機関として機能し、各支部との連絡調整を図っている。さらに、各支部からは P T A 会長

をはじめとする本部役員（執行部）への選出も行い、校内はもとより、対外的なPTA組織との関わりを持っている。

理事会は支部とは別に2つの専門部を持っており、メンバーは理事同様に各支部から選出される。総務部は様々な行事や研修への企画・立案、参加および職員と保護者の親睦を担っており、広報部は年3回のPTA・後援会日より（広報誌）の企画・発行を担当している。かつては補導部、進路部、環境部、保健部なども存在したが、現在では活動を休止している。

このようにして、支部中心のPTA組織を形成していることが、本校PTAの大きな特徴と言える。さらに、PTA組織とは別に、後援会を設置し、生徒の教育活動をバックアップしている。



4 生徒指導（生活指導）に関するPTAの具体的活動

（1）あいさつ運動（交通安全指導）

年間6回朝の登校時において、交通安全指導を行っている。学校周辺は車の往来もかなり多く、大変危険であるため、校門付近や周辺の交差点などにおいて、歩行や自転車乗車での交通ルールやマナーを向上させる目的で、あいさつや声掛けなどを行いながら、積極的に生徒とのコミュニケーションを図っている。実施後の報告会においても、生徒の反応が良いとの意見が多かった。以前は年10回行っていたが、近年ではPTAの負担軽減のため回数を減らした。



（２）体育祭において

６月初旬に行われる体育祭において、一般保護者の受付や誘導をしながら、生徒の応援や健康観察をしている。本校では基本的に関係者以外の立ち入りを制限しており、受付と共に入校章（名札）の携行を義務づけて実施している。今年は１３０名程の来校者があった。体育祭での家庭では見られない生徒の一生懸命さを目にすることや、競技へ参加している姿に声援を送るのも大きな楽しみである。以前は、ＰＴＡの参加種目があったが、コロナ禍をきっかけに実施を見送っている。また、応援テントの一角で「制服リサイクル活動※」を行ない、制服の必要な方との相談や販売を行っている。

（３）文化祭において

１１月初旬に行われる文化祭の一般公開において、これまで「ＰＴＡバザー」という形で参加してきた。さらに、生徒のクラスの催し物や部活動などの発表を見ながら、文化祭での生徒の安全な活動を確保するための「校内巡回指導」にも一役買っている。

また、「ＰＴＡバザー」では支部毎に手作り品を製作して保護者同士の交流を深めてもらい、販売をととして生徒たちとのコミュニケーションも図ることができるというメリットがある。最近では、ゲーム的な要素を取り入れ、体験的な参加への工夫を行っている支部もあった。例年、会場は保護者や生徒たちでとても賑わっている。文化祭においても「制服リサイクル活動※」を行っている。



制服リサイクル活動※について

本校ＰＴＡでは、お子さんの成長や卒業などで不要になった制服（ブレザー、ズボン、ネクタイ、セーター）を学校で預かり、必要な方にお譲りする活動をしています。

その売上金は、全額、日本赤十字社などに寄付しています。

お預かりは学校にて随時行っています。



５ 本校の将来を見据えて

（１）現状の問題点と今後の課題

昨年度、ＰＴＡへの加入が任意であるという事を受け、ＰＴＡ役員とＰＴＡ会員との関係を断ち切

り、PTA会員数を維持し、支部への負担を軽減するという趣旨で、検討を進めてきた。年度末のPTA理事会において、PTA組織における7支部の廃止が決定した。これにより、各支部からの選出という大きな流れが絶たれ、例年なら滞りなく選ばれる理事や各委員会への配置が未だ必要分を確保できていないという弊害が生じた。特に、対外的な役割を持つ本部役員数も危機的な状況である。理事会と学校とで知恵を出し合い、新たな選出方法を模索中ではあるが、何とか今年度中に見通しを立てたい。なお、在校生の保護者全員がPTAに加入している。

(2) スクールカウンセラー等の活用について

学校では、3年ほど前から生徒トラブルの発生を機に、生徒への対応の在り方について、生徒指導部内で検討されてきた。具体的には、生徒へのカウンセリングと共に、外部のカウンセラーとして、東部教育事務所の方や宇都宮大学の先生を定期的にお呼びして指導や助言をいただいている。

最近になり、校内における特別支援委員会を立ち上げ、校内コーディネーターや養護教諭を中心に、悩みや不安を抱える生徒のケアを効果的に行っているとのことである。また、悩みや不安を抱える生徒数も年々増加しているという話も伺っており、多様な生徒が安心して高校生活が送れるように、PTAとしての支援が可能であるかを考えたい。

6 おわりに

家庭内において子どもへの指導は毎日保護者に任されているが、高校での教育活動において保護者が生徒と関わりを持つ場面はそう多くはない。そのため、PTAとして生徒との関わりの中で生徒指導を、何をどれだけできるのか、どれだけできているのか、について疑問に思うことがある。

しかしながら、子どもの親としてではなく、PTAという組織として生徒や先生方と接することで、子どもの成長や素直な表情を見たり、家庭ではできない指導をしてあげたりできるのではないかと感じている。

今回は、皆さんへの投げかけもあり、まとまらない内容となりましたが、他校のご意見、ご提案を頂戴し、本校のPTA組織や活動をより良いものにして行きたいと考えている。

《参考》



PTA進路研修（総務部主催）

【令和7年度 埼高P連（生徒指導）専門委員会】

～PTA 活動の歩みと、生徒たちに託す未来～

埼玉県立狭山工業高等学校 PTA 会長 村田 顕光

1 学校概要

本校は1962年（昭和37年）に開校し、本年度で創立63年目を迎えました。
初年度の学科は機械科のみでしたが、翌年には電気科が開設。その後、産業構造の変化や時代のニーズに伴い1988年には電子機械科が追加で開設されて、現在に至ります。

校訓「誠実・創造・不屈・和楽」のもと、「地域社会の期待に応える工業高校」を理念に掲げ、半世紀以上にわたり工業教育を通じて知・徳・体の調和ある人材を育成し、約1万人の工業技術者を輩出しています。その歩みは地域産業の発展にも貢献し、工業高校としての校風と伝統を着実に築いてきました。



その結果として、電気工事士や各種技能検定をはじめとした国家資格の取得だけでなく、高校生ロボコンテストやエコカーコンテスト、ソーラーカーレースにアマチュア無線コンテストなどのイベントに出場し、日頃の技術力を盛んに発揮して活躍している姿は、その成果の一端と言えます。

また地域社会に対しては親子ものづくり教室やミニSL運行の他、ここ最近は近隣の茶葉農家と協力して狭山茶を紅茶に加工した「狭紅茶」や「狭紅茶ジェラート」が考案されメディアでも取り上げられるなど、地域に溶け込んだ活動が身を結んできています。

地域イベントへの参加



各種大会での入賞！



2 狭山工業高校の進路実績

近年の狭山工業高校では大学や専門学校に進学する生徒が増加しています。
令和6年度の進路決定状況は進学と就職が半々という割合になっています。

・進学「指定校推薦枠 多数！」

本校には30校近い大学、100校を超える専門学校から、多くの指定校推薦枠をいただいています。進学する生徒の多くは、学校推薦型選抜での受験がほとんどであり、工学部などの理系だけでなく経済学部や法学部など、文系学部への進学実績もあります。

・就職「内定率 100％」

企業選択の相談から面接・試験対策のサポートまで、ひとりひとりに合わせた丁寧な進路指導を行います。狭山工業高校が長年培ってきた信頼関係と実績により、企業からの期待も高まっています！

・求人件数 「約3210件」

令和6年度の求人件数は3210件を超えました！自動車部品製造などの工業系や食品の製造業をはじめ、整備メンテナンス、印刷業、販売やネイリストなどの接客業まで、幅広いジャンルの求人をいただいています。豊富な業種・職種の中から自分にあった仕事を見つけ、納得して社会に出ていくこと

ができます。このように、生徒たちは多彩な進路を切り拓いています。その挑戦を支えているのは、先生方の熱心な御指導と、家庭や地域の見守りだと思います

3 狭山工業高校の PTA 活動

狭山工業高校の現在の PTA 組織は、会長 1 名、本部役員、学年委員、広報委員、会計監査となっています。過去には生徒指導と進路指導の分科会が存在したが、生徒数の減少に伴い PTA 役員数も減少となり、発展的解消となりました。また保護者の負担軽減や生活スタイルを考慮し、無理なく柔軟な PTA 活動として回数を絞った支援にシフトしてきています。

現在の主な活動は以下となっております。

- ・常任理事会（年 3 回）
- ・運動会・マラソン大会でのドリンク配布
- ・文化祭（狭工祭）への出店
- ・卒業式のコサージュと紅白饅頭配布
- ・広報誌（年 2 回発行）
- ・連絡は LINE グループで随時



この中で唯一メインの活動となっているのが文化祭への出店でアイス販売を行っています。これが生徒たちには大変好評でコロナ明けとなる 2023 年からの PTA の新たな取り組みですが、この 2 年間は文化祭の終了前に完売してしまうほど盛況です。

このように狭山工業高校 PTA は、時代の変化に合わせて形を変えて活動しておりますが、生徒たちを支えるという根本の思いは変わりません。ただ今後は行事の支援だけでなく、新しい時代にふさわしい“生徒指導のあり方”をどう考えるかが問われていると感じます。

4 終わりに ～これからは新しい形での「生徒指導」が必要～

これからの時代に我々親世代となる PTA ができることは新しい形での「生徒指導」ではないでしょうか。

まず一つ目は、政治や社会への関心を持ち未来のビジョンを描くことです。18 歳から選挙権が与えられ、高校生も社会を動かす一員となりました。もし政治に関心のないままであれば、社会は他人任せとなり、結局は一部の政治家の思うままにされてしまうでしょう。ここでいう政治に関心を持つということは、特定の誰かを支持することではなく、自分たちの社会をどう良くするかを考え、責任ある行動をとる力です。今の社会状況を見渡すと、SNS 規制やフェイクニュースといった言葉が飛び交っています。このままでは言論の自由が制限される社会になってしまうのではないかと懸念する声もあります。そんな未来をこれからの将来を担う子どもたちに引き渡すわけにはいきません。

二つ目は、日本の文化やマナーを大切に継承していくことです。

その一例として、本校では「私服 DAY」という取り組みを行っています。社会に出る前に、TPO に合わせた服装を自ら考える経験を積み、常識の範囲でカジュアルさと礼儀を両立させる練習となっています。挨拶や礼儀、公共の場での振る舞い、助け合いの精神といった日本の古き良き文化は世界に誇れるものです。それを最近では多様性という言葉のもとで日本文化の良さが軽視される風潮が見られます。だから日本人として日本文化を守り、誇りを持って生きる姿勢が大切だと思います。

今の時代はまさに、子どもたち生徒たちと日本社会の未来を共に考え、日本が良くなるために自由に語れる世の中を守る。その自覚を PTA としても保護者としても伝えていくことが私たちの責任であると考えます。そして、生徒の皆さんには、自ら考え、学び、社会の一員として羽ばたいていくことを期待しています。

私は今年度で PTA 会長を退任いたします。そのため今日だけは遠慮なく本音をお伝えしました。生徒たちが自分の頭で考え、自由に語り、日本の文化に誇りを持ちながら社会を担う一員として成長していくことを、皆さんと共に心から願っています。



～埼玉県立浦和高等学校における PTA 活動と生徒指導（令和 7 年度）～

埼玉県立浦和高等学校 PTA 会長

清水 将寛

1. 学校の概要

● 基本情報

埼玉県立浦和高等学校は、1895 年（明治 28 年）に創立された県内屈指の伝統校であり、今年創立 130 周年を迎えました。

校訓「尚文昌武」のもと、学問と武道の両立を重んじる教育を展開しており、通称「浦高（うらこう）」として広く知られています。



課程は全日制（単位制）と定時制（学年制）を併設し、普通科を設置。生徒数は全日制約 1,080 名、定時制約 60 名で、男子校として運営されています。さいたま市浦和区領家に位置しており、最寄駅は JR 京浜東北線「北浦和駅」で、徒歩約 10 分の距離にあります。

● 教育の特色

埼玉県の「進学指導重点推進校」に指定されており、難関大学への進学を目指す教育体制が整っています。2014 年には文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」に指定され、国際的視野を育む教育にも力を入れています。埼玉大学との高大連携により、大学レベルの講義を体験できる機会も提供。単位制を活かした多様な選択科目や少人数制授業を通じて、生徒の主体的な学びを支援しています。

● 学校行事

生徒の自主性を尊重した学校行事が数多く行われています。代表的な行事である「浦高祭」は、生徒が企画・運営を担う文化祭で、地域にも開かれた盛大なイベントです。今年は過去最高の 14,009 人の来場者がありました。また、茨城県古河市までの約 50km を制限時間内に歩く（走る？）「強歩大会」は、体力と精神力を養う伝統行事として定着しています。そのほか、生徒主体による数多くスポーツ大会・文化大会が、基本的に『雨天決行』で実施されています。卒業生による特別講義「麗和セミナー」では、進路選択や学問への理解を深める貴重な機会が提供されています。

● 部活動・進路

部活動も活発で、特にラグビー部は全国大会出場経験を持つ強豪として知られています。進学面では、東京大学をはじめとする難関国公立大学への合格者を多数輩出しており、生徒は勉強・部活動・学校行事に取り組み（追われ）ながら、自主性と協働性を育んでいます。

● 国際交流

1995 年より英国の名門校ウィットギフトスクールと姉妹校提携を結び、国際交流を積極的に推進しています。隔年での生徒派遣や留学生の受け入れを通じて、グローバルな視点を育む教育環境が整っています。

● 主な卒業生

浦和高校の卒業生には、宇宙飛行士の若田光一氏、心臓外科医の天野篤氏、漫画家の本宮ひろ志氏、音楽家のタケカワユキヒデ氏など、各界で活躍する人物が多数います。こうした先輩方の存在は、生徒の将来への励みとなっています。

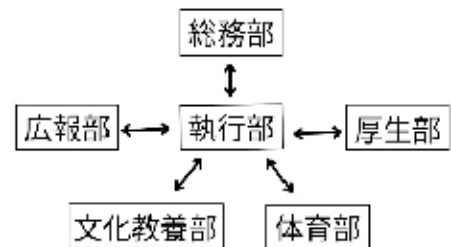
2. PTA について

本校 PTA は、執行部を中心に総務部・厚生部・体育部・文化教養部・広報部 の 5 つの専門部で構成されています。各専門部が連携し、年間事業計画に基づいて活動を展開しています。

会員数：全日制 1080 名＋教職員 82 名、定時制 31 名＋教職員 14 名

執行部：会長、副会長、監事を含め 8 名

専門部：総務部 27 名、厚生部 39 名、体育部 78 名、広報部 24 名、文化教養部 42 名（令和 7 年 5 月現在）



● 活動の特色

本校 PTA の大きな特色は、役員や専門部員の多くが立候補によって成り立っているという点です。保護者の自主的な参加によって組織が支えられており、その主体性が活動の原動力となっています。さらに、本校 PTA は単なる学校運営の補助組織ではなく、「同じ高校に通う子どもを持つ保護者のサークル」のような雰囲気です。和気あいあいとした人間関係の中で、保護者同士が交流を深めながら協力し合い、生徒の学校生活を支えることができる点も大きな魅力です。

● 各専門部の役割

執行部：PTA 全体をまとめて各部の活動を調整し、学校との橋渡し役を担っています。行事や教育活動を支え、保護者の声を学校に届ける役割を担っています。また浦高 PTA を代表して、連合会や他校との交流にも参加しています。

総務部：会議や卒業祝賀、合同歓迎迎会の企画運営やクラス懇親会の運営補助など学校や執行部、保護者の繋がりをサポートしています。

厚生部：PTA 会員の親睦を目的とした「親睦ハイキング」の企画・運営を行っています。自然に親しみながら健康増進を図るとともに、会員同士の交流を深める良い機会となっています。

体育部：伝統行事「古河強歩大会（通称：古河マラ）」の運営をサポートしています。茨城県古河市までの約 50km を安全に走れるよう、6 カ所の関門のうち 2 カ所の運営を主に担っています。

広報部：年に 2 回広報紙の発行を行っています。日頃なかなか学校生活を語らない息子たちに代わり、広報紙は保護者にとって貴重な情報源となっています。

文化教養部：PTA 会員向けに各界の著名人を招いた講演会を企画・運営しています。多方面で活躍する浦高 OB も多数登壇され、保護者が学びや刺激を得られる、貴重な機会となっています。

3. 生徒指導に関する PTA の活動 ～強歩大会(通称:古河マラ)～

●強歩大会の歴史

本校の強歩大会は、当初耐久競走という名称で行われていました。昭和初期、当時の世相を反映して、「全体活動の重視」「耐久力の養成」「鍛錬の強調」という教育機運にのって、昭和 11 年 11 月 23 日に第 1 回目が実施されました。

本校校庭をスタートし、8 時間という制限時間内に日光街道をいけるところまでいくというやり方で、栃木県宇都宮市近くまでのコースでした。

その後、戦争の影響等で中断していたが、昭和 34 年に生徒会長に立候補した生徒の公約が実って復活し、実施されるようになりました。校庭をスタートし、岩槻、和戸、久喜、鷺宮、栗橋を経て古河第一小学校に至る約 47KM のコースでした。当時の道路は、市街地を除いては、全部砂利道であったため、底豆を作る者が多かったようです。

回を重ねるに従って、道路の舗装や交通事情の変化により、運営方法も改善されています。昭和 37 年頃から、県警本部のご好意によって、白バイによる先導や交差点の交通整理がなされるようになりました。次第に浦高強歩大会は定着化し、沿道各地の先輩各位及び住民の方も協力していただくようになりました。

昭和 61 年度より、各関門だけでなく交差点の整理にも保護者が役員として協力し、文字通り学校及び PTA が一体となって実施されています。

平成 2 年には、台風並みの低気圧で強雨の史上最悪の天候の中を強行、平成 7 年度では浦高創立 100 周年の大きな節目にあたり、往復 100KM 完走する者が多数でした。

令和 2 年、新型コロナウイルス感染症の影響により大会の開催が危ぶまれました。しかし、感染症予防対策を徹底することで、大会の実施に漕ぎ着け、無事に感染者を 1 人も出さずに大会を終えることができました。また、令和 3 年は「都道府県をまたぐ移動の制限」が予想されたため、到着地を古河第一小から北川辺東小に変更、衆議院選挙の投票日とも重なったため、導線を一部変更して実施されました。



● 強歩大会の実施概要

令和7年度で67回目を迎え、恒例の11月第一日曜日に開催されます。

浦和高校からの出発は7時30分で、出発前には生徒主導で入念に準備体操があります。前回は66回大会にちなんで、66回スクワットをしてからでした。体育祭の時は、雨天決行どころんこの中、背筋運動をやるという準備体操もあります。

スタートは、3年、2年、1年の順で出発します。5月の新入生歓迎マラソンとは逆です。制限時間は7時間ですが、関門ごとに制限時間があります。

部活動の大会参加者など一部の生徒を除いて、全校約生徒1050名のうち約950名程度が参加します。実施前の体育は、1周約800Mの学校外周をひたすら走って訓練します。

直近3年間の完歩率は平均70%前後、先頭者は4時間程度で走り抜きます。近年は気温上昇のため、完歩率にも影響が出ています。



● PTA、沿道の方々との協力により実施

◆ 6つの関門と133の交差点

各関門には医師・教員・保護者を配置し、PTAとしては303名の協力がありました。(令和5年度実績) 交差点は多数あり、交差点ごとに2~4名の保護者を配置、PTAの協力で運営されています。

夏休み明けに校長名で保護者に協力の依頼があり、実施2週間前に学校で全体説明会を開催し、安全確保、ルールの徹底、役割分担等を確認します。

運営は、体育科教員とPTA体育部が中心となってあたります。

生徒たちは、参加者カードを持って走ります。近年は、QRコードで履歴を管理しています。



4. おわりに

本校PTAでは、各学年70名近い保護者がPTA各専門部に所属しており、先述したように「同じ高校に通う子どもを持つ保護者のサークル」のような雰囲気で開催していることが大きな特徴です。また、強歩大会は、体育部やそれ以外の保護者らの多くの協力もあって成り立っている行事です。学校職員だけでは決して成し遂げられない、この伝統的な行事にPTAが一体となって生徒たちの成長を「泰然自若」に見守り、支え続けています。

以上

自転車の安全利用に係る交通安全教室の実施について

埼玉県立熊谷西高等学校 PTA 会長 新 みどり

1 学校概要

熊谷西高等学校は、昭和 50 年、地元熊谷市をはじめとする地域の方々からの強い要望と大きな期待により、熊谷市初の普通科の共学校として開校した。平成 4 年度からは、理数科も設置され、令和6年には創立 50 年を迎え、本年度は、創立 51 年目、新たな半世紀の第一歩となる記念すべき年となった。



創立以来、「知識と良識を兼ね備え、自他を愛し、調和のとれた社会人を育成する」ことを教育目標として歴史を重ねてきた。卒業生は、15,000 人を超え、県内外を問わず、行政、産業、教育、医療、文化・芸術とあらゆる分野で社会のリーダーとして活躍している。

平成 24 年度からは、文部科学省から「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)」としての指定を受け、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的な探究能力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための取組も実施している。現在、第 3 期目の指定を受け、普通科・理数科、文科系・理科系問わず、全校体制で探究活動を実施しているところである。

また、日々の授業を大切にした学習活動、仲間と作り上げる学校行事・心身を鍛える部活動等に、バランスよく取り組むことにより、高い志を持って希望進路実現を目指すとともに、次世代を担う品格あるリーダーとしての素養の育成にも取り組んでいる。



2 PTA 組織

熊谷西高校PTAは、会長1名、副会長11名、理事40名を本部役員として、活動の計画、立案、運営等を実施している。理事は、総務委員会、進路委員会、広報委員会の3つの委員会に所属し、活動している。PTA組織のほか、後援会として、会長、理事を本部役員として組織している。

- ・総務委員会：他の専門委員会に属さない活動、高P連の総会や研修会などの出席
- ・進路委員会：進路講演会等の立案、開催
- ・広報委員会：広報誌「公孫樹」の発行

(1) 組織改編について

長年にわたり支部制での役員選出にてPTA活動を行ってきたが、在籍する生徒数のバランスが崩れ、支部によっては役員選出が困難な状況となった。そのため、PTA・後援会活動の負担軽減も考慮した上で、持続可能な組織へと再編成することが必要と考えた。

令和6年度より、役員の選出方法を支部（地区）単位から学年単位へ変更し、入学許可候補者説明会時に3学年に至るまでの全役員（本部・理事）を選出することとした。また、委員会数は、5部から3部へ改編し、理事定員についても85人から25人へ削減した。

(2) 組織図

PTA（本部）

- ・会長（2年）1人
- ・副会長+監事（2年）2人
- ・副会長（2年）2人
- ・副会長（1年）8人

PTA（理事）

- ・総務委員長（1年）1人
- ・進路（3年）委員長1人
- ・進路（2年）委員長1人
- ・進路（1年）委員長1人
- ・広報委員長（1年）1人
- ・総務委員（1年）7人
- ・進路（3年）委員7人
- ・進路（2年）委員7人
- ・進路（1年）委員7人
- ・広報委員（1年）7人

後援会

- ・会長（2年）1人
- ・理事+監事（2年）2人
- ・理事（1年）6人



熊谷西高校マスコット
「にしにゃん」

3 交通安全教室について

令和7年度、熊谷西高校は、埼玉県教育委員会の委嘱により、【令和7年度自転車ヘルメット着用推進校】となった。ここでは、生徒指導に関わる研究発表として、自転車利用に係る研究及び本校で実施した交通安全教室について紹介をさせていただく。

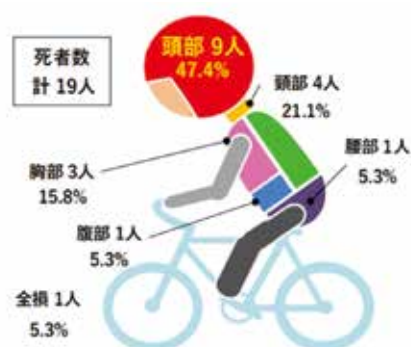
(1) 近年の高校生の自転車利用に係る交通事故の実態について

埼玉県警察によると、自転車乗車時の事故死傷者数は、高校1年生で急増する。また右のグラフからわかるように、小学4年生、中学1年生、高校1年生で急増していることがわかる。その主な理由は、行動範囲の拡大ということが原因として考えられる。中学生や高校生になると、通学距離が伸びたり、自身で行動できる日常の行動範囲も広がったりすることが考えられる。



学年別の自転車事故死傷者数（埼玉県・過去5年間）

そのため、特に高校1年生においては、事故に遭わないための交通安全に関わる教育が重要だと考えた。



自転車事故死者の負傷部位（令和6年中）

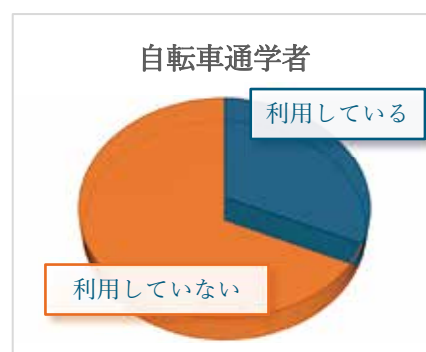
県警察の報告では、令和6年中、県内の自転車乗用中の交通事故による死者数は19人で、そのうち約半数が頭部に致命傷を負っている。なお、死亡した19人のうち、ヘルメットを着用していた者は3人、着用していなかった者は16人であった。

警察庁の調べでは、ヘルメットを着用していなかった者の致死率は、着用していた者と比べ、約1.9倍高くなっていることがわかった。

（2）本校生徒の自転車利用について

熊谷西高校の全校生徒は、約1000人であり、普通科7クラスと理数科1クラスの各学年8クラス展開の大規模校である。

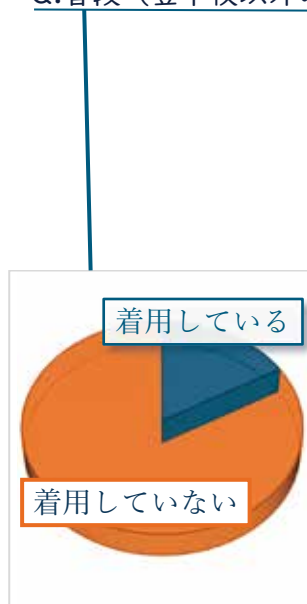
4月に実施した調査によると、641人の生徒が公共交通機関を利用していることがわかった。これは、本校全生徒の約7割（67.8%）である。自転車を利用して登下校する生徒は、全体の約3割に当たる300人であった。



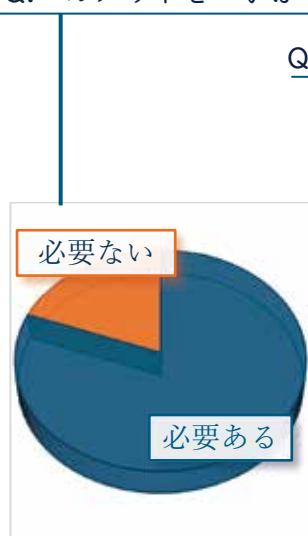
（3）自転車乗車時のヘルメット着用状況について

令和7年7月、全校生徒を対象に自転車乗車時のヘルメット着用率調査アンケートを実施した。

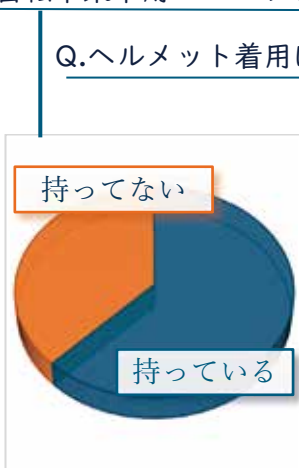
Q.普段（登下校以外の時間で）、自転車を利用する時に、ヘルメットを着用していますか？



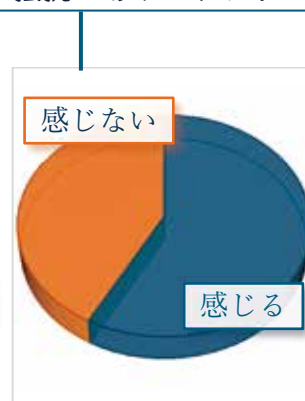
Q.ヘルメットを「かぶる必要がない」と思いますか？



Q.自転車乗車用ヘルメットを持っていますか？



Q.ヘルメット着用に抵抗はありますか？



本調査結果から、「自転車乗車時のヘルメットの必要性は理解し、ヘルメットを持っではいるが、着用には抵抗がある。」という生徒が多いことがわかった。着用について、「髪型が崩れることは気になりますか？」という問いに対して、「気になる」と回答した生徒が73.4%であった。

(4) 自転車乗車時のヘルメット着用推進に向けて

①交通安全教室

令和7年9月4日(木) 自転車ヘルメット着用推進校の活動の一つとして、本校体育館において、交通安全教室を学校とPTAとの共催で実施した。こちらは、スケアード・ストレイト教育技法を用いた模擬交通事故の見学体験である。



あいにくの雨天により体育館での実施となったが、スタントマンが実演する模擬交通事故は、まさに迫真の演技であり、交通事故の恐ろしさや自転車乗車時のヘルメットの必要性について、高校生の脳裏に深く記憶されたことと考える。今回のこの貴重な経験を基に、自転車ヘルメットの着用率が向上することを願っている。

②自転車乗車時の交通ルールやマナーについて

◇自転車安全利用5則 ① 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先 ② 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認 ③ 夜間はライトを点灯 ④ 飲酒運転は禁止 ⑤ ヘルメットを着用	◇自転車損害保険等への加入義務 埼玉県条例により、県内で自転車を運転する場合には、自転車損害保険等の賠償責任保険への加入が義務となった。(H30.4.1)
◇危険な自転車利用例 ○スマートフォンを使用しながらの運転は注意が散漫になり危険。 ○イヤホン・ヘッドフォンの使用は周りの音が聞こえにくくなり危険。 ○二人乗りはバランスを崩す恐れがあるので危険。 ○他の自転車と並んで通行する並進も危険。  埼玉県マスコット「コバトン」	

4 おわりに

熊谷西高校 PTA では、魅力的な活動を継続していくために、持続可能な在り方について模索してきたが、今回の研究を経て、PTA が一丸となることが何よりも大切であると感じた。特に交通安全については、子供たちが楽しい高校生活を送っていけるように、保護者も一緒に考え、一緒に取り組んでいきたい。今後も、学校の更なる発展及び子供たちの教育活動の充実に向け、教職員・保護者の連携を一層強化していきたい。